

ホームランニュース

<http://www.funabashi-gakudou-baseball.jp>

発行 船橋市野球協会少年学童部

船橋市地域対抗6年生選抜メンバー

背番号	選手	チーム	ポジション
10	古島 佑樹	喜野井	投手
1	門間 介里	ツイ野井	投手
2	石田 愛大	田喜野井	投手
3	岡野 我我	田喜野井	投手
4	坂本 成海	夏見台	投手
5	松本 海斗	夏見台	投手
6	山口 将弘	塚田	投手
7	内神 拓哉	さ法典	投手
8	山原 貴生	夏見台	投手
9	金城 藤也	ツイ野井	投手
11	齊藤 雄介	ツイ野井	投手
12	北野 翔太	田喜野井	投手
13	橋本 佳虎	習志野	投手
14	西尾 勇真	習志野	投手
15	橋本 沢樹	西高	投手
16	柄竹 樹哉	西高	投手
17	竹田 拓哉	海山	投手
18	吉河 雅登	三葉	投手
19	清水 尚文	三葉	投手
20	木澤 尚文	三葉	投手

監督 コーチ コーチ
 石中門 附井間 民勝祐 夫行二

第九回千葉県少年野球連盟 地域対抗6年生選抜大会

初の決勝進出
見事準優勝に輝く

第九回地域対抗6年生選抜大会において船橋選抜チームは、惜しくも優勝は逃しましたが、過去最高だった、第六回大会の第三位を上回る準優勝に輝きました。

県内一五地域から一六チーム(千葉市二チーム)が参加し一月二七、二八日の二日間で行われた大会は、マリンスタジアムが改修工事のため、秋津球場で開会式を行い千

初戦は完封勝ち

船橋	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
市原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

葉、習志野、船橋市内の各球場に分かれて初日の戦いが繰り広げられました。

船橋選抜は一回戦を開会式終了後の秋津球場で市原選抜と対戦しました。両チームの投手が好投し、船橋は四回表にワンチャンスを生かし一点を先制。その後市原の反撃を一旦に抑え完封勝ちを収めました。



表彰終了後の船橋選抜の選手たち

船橋	1	0	0	0	4	0	0	5
市原	0	0	0	0	0	2	0	2

二回戦は習志野球場に場所を移し、千葉選抜Aに五対一で勝ち上がった、前年優勝、そして今年も優勝候補とのうわさが高い市川選抜との対戦となりました。一回表に、三、四番の連続安打で一点を先制、四回にも相手投手交代の機に乗じ大量四点を取り五対〇と大きくリードしました。六回に三連打で二点を奪われましたが、五対二で準決勝進出を決めました。

四年ぶりに準決勝進出

翌二八日、美浜ふれあい広場で行われた準決勝東総選抜戦では、三回に一点を先制されましたが、四回に同点とし、五回には二死、二、三塁から松本君のセーフティーバントが見事に決まり、二塁走者古島君の好走塁で二点を奪取、逆転に成功しました。守っては六回、七回を一安打、零点に抑え三対一で決勝戦に駒を進めました。この試合では木澤投手が一、二回と七回の

三イニングを打者九人に対し奪三振八個と、圧巻ともいえる投球を見せてくれました。

東総	0	0	1	0	0	0	0	1
船橋	0	0	0	1	2	0	X	3

さて、船橋選抜としては初めての経験となる決勝戦、相手は北総選抜を四対二で下した印旛選抜。試合は四回の裏に、三番、四番の連続長打で船橋選抜が一点を先取しました。しかし、印旛選抜は六回、連続安打と四球で一死満塁と反撃、五番打者の右中間へのタイムリーが出て、二点を失いました。

船橋選抜もその裏、一死満塁とチャンスを迎えましたがあと一本が出ず、無得点。結局この回に点が取れなかったことが響き、七回にも一点を追加され、一対三で敗戦となり、優勝は次年度以降へ持ち越しとなりましたが、短い準備の中で見事な準優勝であったと思います。

今回、船橋選抜チームの監督は、夏季大会優勝の田喜野井ファイターズ石附監督にお願いしました。また、選手は石附監督及び各支部からの推薦で二十名を選抜し、コー

チ陣は夏見台アタックス中井A監督、ツインドルフィングズ門間A監督の体制で臨みました。

セレクションを兼ねた初顔合わせが十月十七日、大会本番まで一月ちよつと、練習試合は六試合こなししたもの、全体でのしつかりした練習もあまり出来ないような状態でしたが、前述したように短期間で見事なチームワークを作り上げた、選手並びに指導者に感謝です。

印旛	0	0	0	0	2	1	3
船橋	0	0	0	1	0	0	1

なお、木澤君と吉河君が今大会の優秀選手に選ばれました。



一月二六日から福岡ドームで開催されていたNPBジュニアトーナメントにおいて、千葉ロッテマリーンズジュニアは予選リーグを勝ち抜き、二八日の決勝戦でヤクルトスワローズジュニアに八対二で勝ち初優勝しました。

千葉ロッテはファーム日本選手権、日本シリーズに続き三冠を達成しました。

第三三回 船橋市少年学童 野球 新人大会 (江藤省三杯争奪戦)

今年も劇的な 逆転サヨナラ

西船	1	0	1	0	1	0	0	0
習志野台	2	0	0	0	0	0	0	0
	2	X	4					

第三三回新人大会の決勝戦は、十一月十四日運動公園球場で行われました。

決勝戦は西船ウィングス又習志野台ワンパックスの対戦となりました。初回、先攻の西船は敵失で出塁した先頭打者を三番峯川君の適時打で一点を先取。その裏、習志野台は一番長崎君がヒットで出塁、



優勝旗を授与する江藤省三さん



10年ぶり2回目の優勝の習志野台ワンパックス

ウイグスは、春季大会に連続して優勝し、初優勝も目指す。惜しいが、準優勝に終わる。



準優勝の西船ウィングス



二盗、牽制悪送球の間にホームインし同点、二死後、連続四球で一、二塁とし、六番山田君のレフト前タイムリーで二塁走者菊地君還り逆転しました。

一点を追う西船は三回、峯川君の左中間を破る三塁打、五番中林君の右前安打で同点に追い付きました、さらに五回、エラーと四球で出塁したランナーを手堅く送り、一死二、三塁とし、六番真柳君の三遊間へのヒットで一点を勝ち越しました。

習志野台ワンパックスは十年ぶり二回目の優勝、西船

裏、習志野台は一番からの好打順、先頭の長崎君が三遊間を破るヒット、二番村山君の投前バントがエラーを誘い、一、二塁。続く長岡君もレフト前ヒットで無死満塁と絶好のチャンス。四番菊地君もレフト前ヒットで続き、三塁ランナーがホームインして同点に、二塁ランナーもホームを狙ったが、タッチアウト。しかし、五番、六番の連続ヒットで長岡君が生還し、劇的なサヨナラ逆転勝利で優勝しました。

した。三位は習志野サンデーズ、夏見パワーズでした。なお、表彰式では昨年からの大会を後援していただいている、江本省三さん(慶応義塾大学野球部監督)から、入賞チームに優勝杯等が授与されました。

第三五回船橋市秋季市民大会少年学童の部

三山	1	0	0	0	1	0	2	4
さざんか	2	3	3	0	0	1	X	9

新人戦終了後に行われた、第三五回秋季大会の決勝戦は、三年ぶりに決勝戦に進出したさざんか

ボニーズと、準決勝戦を三回コールドで勝ち抜き初めて決勝戦に臨む三山パワーズの初対戦となりました。

先攻の三山は二死後、死球を足がかりに幸先良く一点を先取しました。その裏さざんかは二死後から同じように死球に安打をからめ二点を取り逆転に成功しました。

さざんかは二回、三回にも三点づつを挙げ八対一と大きくリードしまし



た。三山パワーズも五回、七回にそれぞれ一点、二点と得点しましたが、反撃もそこまで、六回裏にも一点を追加したさざんかが九対四で勝利し、初優勝を飾りました。



準優勝は三山パワーズ、三位は西習志野グリーンファイター、前原エイトマンでした。

第一回 東武鉄道杯 野田線沿線少年野球大会

開会式はナイター

今年初めての開催となる、東武鉄道杯野田線沿線野球大会は十月二日から二三日の日程で行われました。

開会式は二三日、流山市総合運動公園野球場で午後六時から開始され参加三二チームの選手がナイター照明のもと入場行進しました。



試合は翌日から東西二ブロックに分かれ熱戦の火ぶたが切られました。

東部ブロックの試合は船橋市が主管となり、若松公園球場で九日、十日の日程で予定していましたが、あいにくの雨で順延となり、十六日にブロック準決勝が行われ、船橋市のみゆきファルコンズと西船ウイングスが決勝戦に進出しました。なお船橋所属のチームは、準決勝戦でみゆきに負けた習志野サンデーズがブロック三位に、法典コンドルは二回戦柏市の豊上ジュニアーズにサヨナラ逆転負けで惜しくも準決勝には進めませんでした。

ブロック決勝及び本大会決勝は二三日、流山総合運動場で行われました。

第1回東武鉄道杯野田線沿線少年野球大会

Table with columns: No., Team, District, Round, Date, Score, Winner, Finalist. Lists 32 teams and their progress through the tournament.



総合準優勝 みゆきファルコンズ

東部ブロック決勝は西船ウイングスを三対一で下したみゆきファルコンズが優勝し、西部ブロックを制した流山市の加岸ベアーズと初代チャンピオンを賭けて本大会決勝を行いました。残念ながら準優勝に終わりました。

学童部最後の行事、支部対抗戦が十一月二三日若松公園球場で行われました。当日は朝から小雨が降り続き、開始の時間を遅らせ、外野芝生部分を使用しての開始となりました。



最高殊勲選手は植村支部長？

三回戦制のジャンケン勝負、選手たちが見守るなか一回戦を勝ったのは平田東部支部長、二回戦は植村西部支部長が勝ち同点に。最後の一戦は「あいこ」を数度繰り返したのち、植村支部長が「グー」を出し、西部支部の優勝が決まりました。本戦に負けず劣らずの抽選を制した西部支部が二年ぶりの優勝、昨年優勝の東部支部は準優勝、三位北部支部、4位は南部支部でした。



優勝の西部支部選抜チーム

決戦戦は大柄な選手が多い東部支部に対し小柄な西部支部の対戦になりました。両チームとも投手の好投とバッターの好守備により互いに譲らず、対○のまま延長戦に入りました。延長戦でも両支部決め手がなく、九回が終わっても無得点のまま、時間も過ぎていたた

今号は好成績だった地域対抗六年生選抜大会がメインになりました。そのため掲載できなかった五市親善等については次号に掲載いたします。

支部情報のページ

西部支部頑張っています!

新米支部長ご挨拶

松の内も明けやらぬ今年(小栗原ベアーズ)の四人の重鎮からお声がけいただき(呼び出され?)、近所の焼肉屋に出向いたのが運の尽きでした。重鎮諸氏が口を揃えていわく、「植村さんに折り入って頼みがある。次の支部長を引き受けてほしい」。

西部支部ではクラブ持ち回り(二年任期)で支部役員を分担し、次期支部長は我がクラブが務める番になっていました。「支部長は荷が重すぎます!」と固辞したものの、多勢に無勢、言い含められるまま、眼前に供された上カルビと豚足をウーロンハイで流し込み、気がついたら「わかりました」と答えていました。内輪の話はこれくらいにして、受けたからにはやり遂げるのが男。塚田クラブの花田前支部長か

ら業務を引き継ぎ、右往左往の日々が始まりました。そして、経験が浅く何をすることも初めてのことでだらけで戸惑いつつも、なんとか一年が過ぎようとしています。この間に、新たな発見、新たな出会いが沢山ありました。特に思い知ったのは、いかに多くの方々が各種大会の運営に尽力しているかということ。各クラブの指導者はもちろんですが、それ以外にも、少年野球は数多の縁の下の力に支えられ成り立っていることを、あらためて実感しました。

至らぬところ多々あれど、学童部や西部支部の皆さんに助けられ、所属クラブの協力を得て、どうにかこうにか任期の半分を遂行。まだまだ新米ではありますが、皆様、来年も何卒よろしくお願ひいたします。

(西部支部長 植村浩志)

少数だけど、頑張っています

西部支部に所属するのは次のクラブです。

- ・ 法典コンドル
- ・ 藤上ディアーズ
- ・ 丸山ベアーズ
- ・ 西船ウィングス
- ・ 小栗原ベアーズ
- ・ 塚田クラブ



12月5日に法典グラウンドで行われた西部支部閉会式。今年の西部支部リーグ戦は、Aリーグが牡鹿台ディアーズ(旧チームで参加)の優勝、BリーグとCリーグは西船ウィングスが優勝しました

西部支部の今年最大のトピックは、八月に藤上ベアーズと牡鹿台ディアーズが合併して「藤上ディアーズ」が発足したことでしょう。詳しくは塚本代表による別稿をお読みいただくとして、選手数八〇名を超すビッグチームが誕生しました。

この合併により西部のクラブは一つ減って6クラブとなりました。数は

少ないですが、どのクラブも学童部大会優勝、県大会出場を目指して頑張っています。資料を紐解いてみると、今年の法典コンドルからさかのぼって西部所属のクラブが県大会(ろうきん旗)に6年連続出場するなど、近年メキメキと実力をつけてきています。また、今年の春季大会Bリーグ優勝、新人大会準優勝の西船ウィングスをはじめ、来年以降の活躍も大いに期待するところです。

西部支部の今年を締めくくる出来事として、支部選抜チームが5市親善大会準優勝、支部対抗戦優勝という、素晴らしい成績を残しました。こちらの詳細は選抜チームを率いた新井



藤上ディアーズ全員集合。ユニホームも新調しました!

監督の次号にお譲りしますが、小柄な選手ばかりの西部選抜チームの頑張りに目を注ぐものがありました。応援も含め、まさに支部一丸となって獲得した栄冠だと思えます。西部の皆さん、来年も頑張りましょう!

新生「藤上ディアーズ」の誕生

藤上ベアーズ創部昭和四九年、牡鹿台ディアーズ昭和四九年、共に三五年以上の歴史を持つ少年野球チームです。ちなみに、私がチームに係わり始めた頃(二七年前)には、少年学童部西部支部に所属するチームは九チームであったと記憶しています。

もともと藤上ベアーズ、牡鹿台ディアーズのチ

ム母体(所属小学校)は法典小学校であり、現在は法典東小学校の子供もチームの重要な要員です。本年平成二二年に牡鹿台ディアーズのホームグラウンドであった法田中学校の第二グラウンドを、所有者に返還せざるを得ない状況が発生しました。これを機に、以前話が出ていたチーム合併の話が現実となったのです。

平成二二年八月をもって新生「藤上ディアーズ」の誕生となりました。現有選手は八〇名以上。第一の目標は県大会への出場です。合併に際しご協力頂いた学童本部、支部の皆様へ感謝を申し上げます。

藤上ディアーズ代表 塚本雄輝